



2021年9月22日 令和3年度第2回大阪府環境審議会水質部会資料

大阪湾見守りネットの取り組みと 大阪湾再生に向けて



大阪湾見守りネット



1. 大阪湾見守りネットの設立

(1) 大阪湾見守りネット設立の背景



- 大阪湾は、瀬戸内海の東の端に位置する周囲を陸に囲まれた閉鎖性海域である。
- 古くから産業・貿易、漁業の場などとして利用されており、また、**昭和30年代頃までは**多数の海水浴場や潮干狩りの場が存在するなど、**大阪湾周辺の人々にとって身近な海**であった。
- 戦後復興・経済成長期には、埋立てなどにより沿岸の物流・生産機能が強化され、**高度経済成長を支える**とともに、背後に集積する人々の生命・財産を護るため、防潮堤などの海岸保全施設の整備などによって、**国民の安全・安心な生活を支えてきた**。
- 一方で、埋立地などの整備により、自然海浜、藻場・干潟などが縮小・消失するとともに、海水が停滞しやすい水域が発生し、背後圏の都市化や産業発展などともあいまって、**赤潮や青潮の発生やごみの増加を引き起こし、生物多様性の低下を招く結果となった**。
- そのため、国土交通省及び海上保安庁では、**都市再生プロジェクト**（平成13年度から）の一環として、先行的に東京湾と大阪湾において、**水質を改善し、市民に親しみやすい海を取り戻すため、関係機関等と連携して総合的な取り組みを開始**した。
- さらに、国土交通省では平成17年度から「**全国海の再生プロジェクト**」として、他の海域においても水質の改善などについての取り組みを本格的に推進している。
- 大阪湾では、平成16年3月に「**大阪湾再生行動計画**」が策定され、関係省庁及び関係地方公共団体等が大阪湾の水環境の改善等を通じた「海と都市のかかわり」に重点を置く総合的な「海の再生」のための取り組みをまとめ、取り組みを推進中である。（現在は平成26年に策定された「大阪湾再生行動計画（第二期）」）
- **大阪湾見守りネットは「大阪湾再生行動計画」の取り組みから誕生**した。

(2) 第1回大阪湾フォーラムの開催



「大阪湾再生行動計画」の取り組みの一環として開催された『ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム』には、大阪湾沿岸域で活動する“大阪湾をほっとおけない”多くの方（150名程度）が参加した。

◎日時：平成 17 年 2 月 26 日（日）
10:00～16:30
◎会場：大阪市立自然史博物館
花と緑と自然の情報センター



講演に聴き入る。会場全景。



大阪湾の航空写真を囲んで意見交換



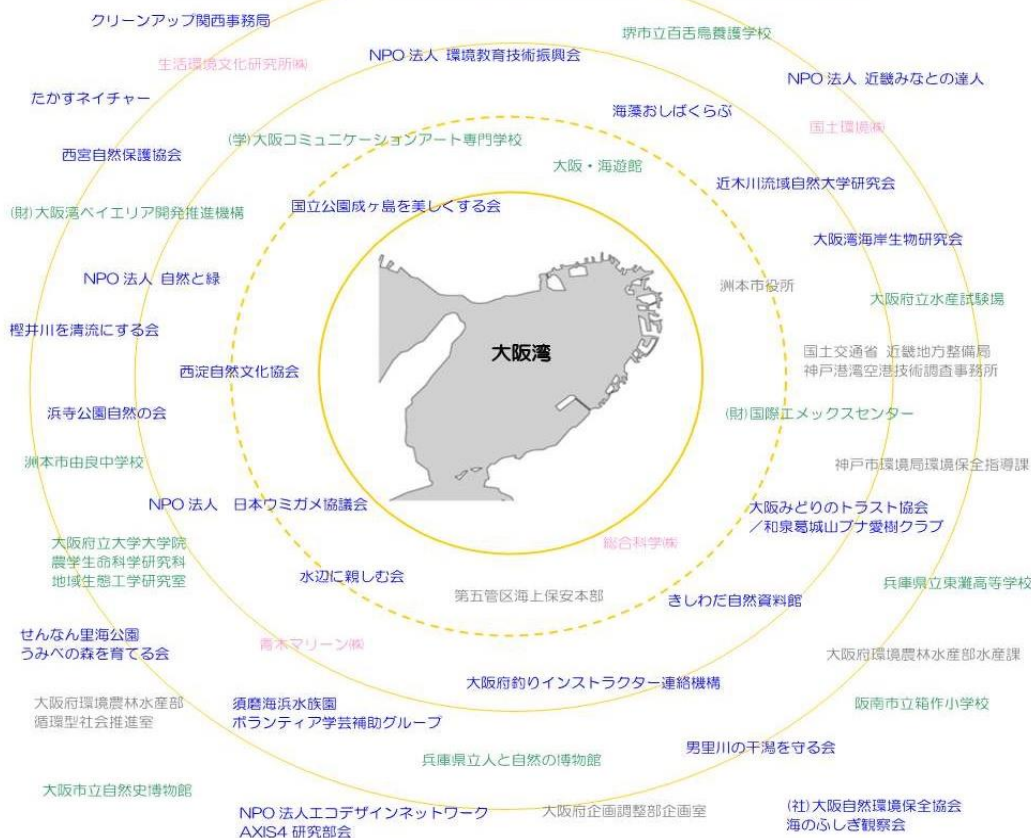
パワーポイントで取組の発表も



ちょっと聞いてよ私たちの取組

ほっといたらあかんやん！ 大阪湾フォーラム

つなげよう！ わたしたちの「大阪湾見守りネットワーク」



- ◆主催：「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」実行委員会、国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所
- ◆協力：大阪市立自然史博物館
- ◆協賛：大阪湾再生推進会議、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構

- ◆参加者合計：144 名
- ◆参加団体：40 団体
- ◆パネル出展団体：22 団体
- ※受付名簿記入者を対象



壁一面に団体のパネルやグッズ展示。



パネルを見ながらお互いの紹介・交流



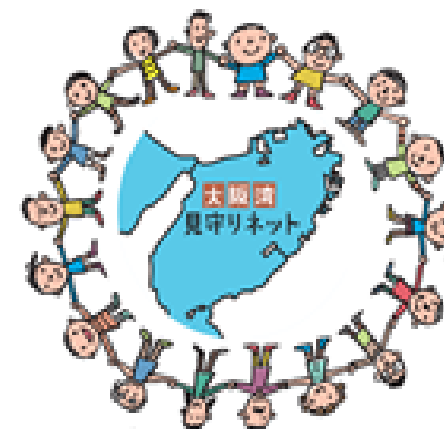
活動紹介マップに書き込んで、貼る

(3) 大阪湾見守りネットの設立



『ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム』の参加者を中心として、平成17年11月12日に「**大阪湾見守りネット**」が設立した。

- ◆ 大阪湾という広域で、**大阪湾再生行動計画に基づく大阪湾の再生をミッション**とし、かつ大阪湾に関わる官民を問わない個人や団体をメンバーとする（登録も自由）、より公益性の高いネットワークです。
- ◆ 多様なメンバーが参加していることから、大阪湾再生に向けた情報交換や共有の場、相互理解の場、人間関係形成の場として活動しています。
- ◆ **大阪湾見守りネットには、約200人（個人・団体含む）**が参加しており、「運営委員会」（10名程度）を中心に情報発信・交流などの企画・運営を行っています。



大阪湾見守りネットがめざすもの

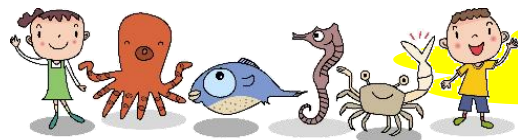
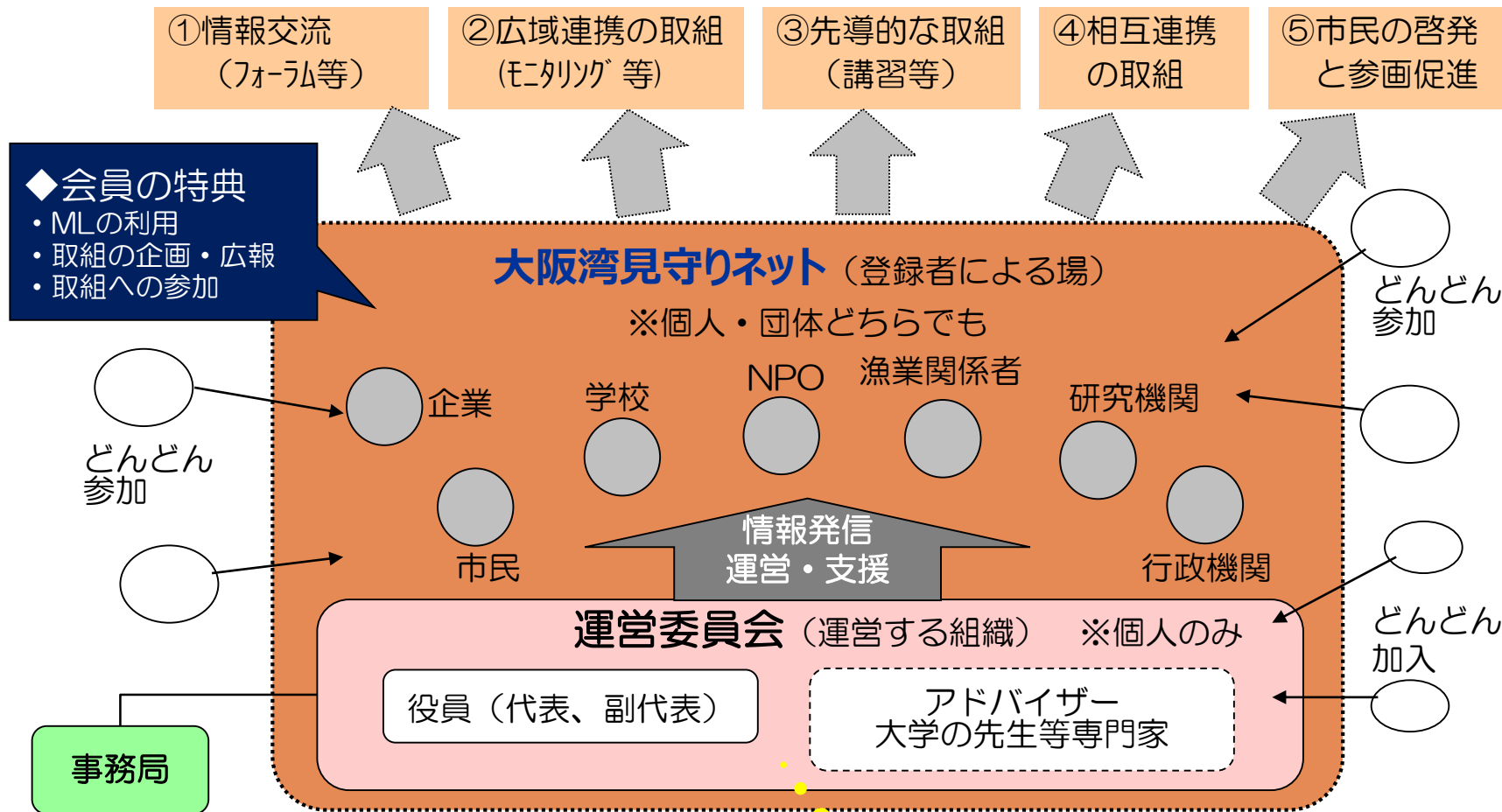
- 見守りネットは、魅力と活力のある、美しい大阪湾の再生をめざします
- 見守りネットは、大阪湾の環境再生を願う個人と関係団体によるゆるやかな交流と連携をめざします
- 見守りネットは、「楽しく面白く」を基本に、自発的で自立的な取り組みを進めます
- 見守りネットは、地域の市民団体、小中高校と大学、漁業関係者、企業、行政機関などと幅広い協働の取り組みを進めます

出典：「大阪湾見守りネット」設立趣意書から抜粋

(4) 大阪湾型プラットフォーム



大阪湾見守りネットは、市民、事業者、NPO、研究機関、行政などの様々な主体が緩やかな連携をはかり、「この指と〜まれ！」の呼びかけで活動する、**大阪湾型プラットフォームを形成**している。



この指と〜まれ！の呼びかけで取組みを実施！！

(5) 会員数・運営委員等



①メンバー

大阪湾見守りネットML登録者（メンバー）は約200人

②運営委員、役員及び事務局

2021年7月末現在

氏名	所属	備考
岩井 克巳	NPO法人 環境教育技術振興会	副代表（事務局担当）
風間 美穂	きしわだ自然資料館	
上甫木 昭春	元大阪府立大学大学	副代表（会計担当）
佐名川 洋之	NPO法人 こども環境活動支援協会	
田中 正視	男里川の干潟を守る会	（初代代表、名誉代表）
中西 敬	NPO法人 人と自然とまちづくりと	三代目代表
鍋島 靖信	大阪市立自然史博物館友の会	
橋本 夏次	近木川流域自然大学研究会	
波戸岡 清峰	大阪湾海岸生物研究会	
本多 俊之	浜寺公園自然の会	
村瀬 りい子	西淀自然文化協会	
山西 良平	西宮市貝類館	（元代表）
吉田 裕之	元須磨水族園	副代表（事業担当）
＜事務局＞ 大阪市立自然史博物館内 大阪湾見守りネット事務局 担当： 松岡 浩史 E-mail : info@osaka-mimamori.net		



2. 大阪湾見守りネットの主な取り組み

(1) 情報交換

情報交換ツールとしてホームページ、facebook、メーリングリストを活用しています。facebookには1,300人以上の方から「いいね！」をいただいています。

①ホームページ（改修中）



③メーリングリスト（登録：約200）

osakawannet@osaka-mimamori.net

②facebook



(2) 大阪湾フォーラム

大阪湾フォーラムの開催

大阪湾フォーラムは、毎年1回開催している見守りネットの中核事業である。

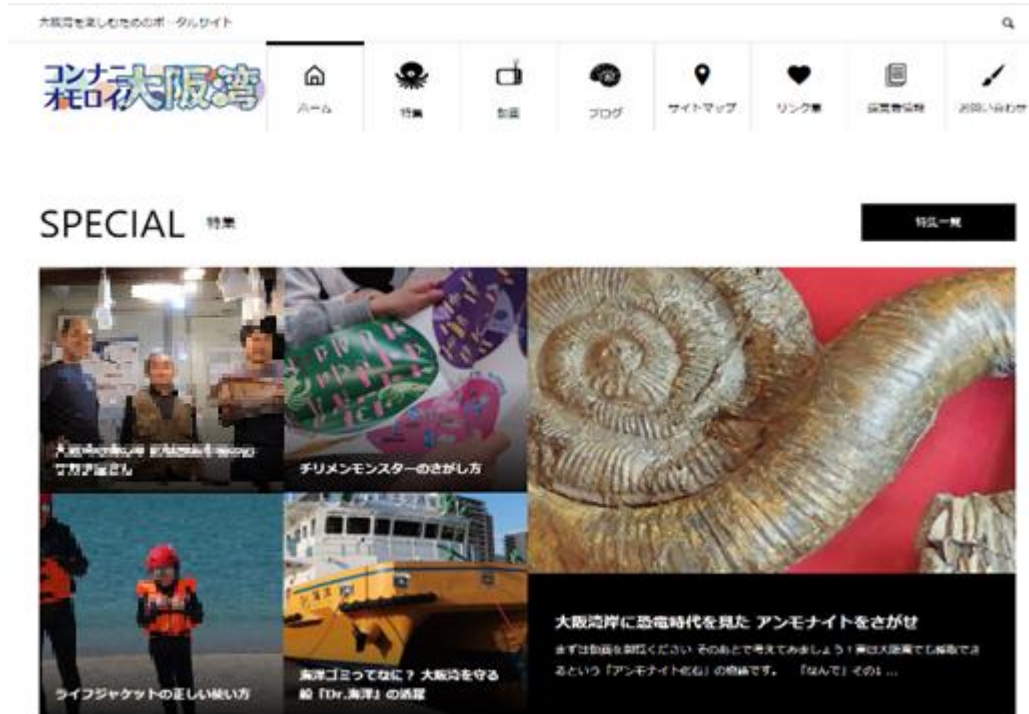
大阪湾フォーラムの運営は、大阪湾沿岸域の活動団体や施設運営組織を中心とした実行委員会を設置して実施するとともに、地元のイベントなどとの共同開催を実施している。なお、第16回フォーラムは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って開催が延期となり、昨年度に第16回、17回フォーラムをリモートで開催した。



(3) その他の活動など

① 助成事業の実施 2019年度「海の学び ミュージアムサポート」

タイトル : 学校に届け！こんなに面白い（おもしろい）大阪湾 ～ポータルサイトの構築による大阪湾の周知
事業期間 : 2019年10月25日（金）～ 2020年4月30日（木）
実施場所 : きしわだ自然資料館・貝塚市立自然遊学館・大阪市立自然史博物館・鶴橋鮮魚市場・せんなん里海公園
・大阪市天王寺動物園・大阪海遊館・兵庫県南あわじ市灘仁頃地区、合計8か所
事業概要 : 海の学びに活用できるポータルサイトの新規開設、関連イベントの取材撮影と動画コンテンツの作成、
学校教員によるポータルサイト活用アンケート調査 など
助成団体 : 公益財団法人 日本海事科学振興財団（船の科学館）
ポータルサイトURL : <https://osaka-bay.net/>



(3) その他の活動など

② 生き物一斉調査への参加

大阪湾見守りネットが主催している取り組みではないが、2008年から「大阪湾生き物一斉調査」（主催：大阪湾環境再生連絡会及び担当団体）が毎年実施されている。大阪湾見守りネットは運営員を中心に調査実施に向けた協力を行っているとともに、見守りネットに参加している多くの団体等が参画している。（詳細は参考資料）

■ 第12回大阪湾生き物一斉調査のチラシと調査地点

私たちの身近な大阪湾に、どんな生き物がいるのかな？
おほさかわん いちもの いっせいちゅうさ

第12回 大阪湾生き物一斉調査

さんかしゃ
★★★参加者募集中★★★

『大阪湾生き物一斉調査』とは…大学・市民団体・国および地方自治体等で構成する「大阪湾環境再生連絡会」が大阪湾の沿岸で活動する団体の協力を得て、皆さんと一緒に各地の生き物を一斉に調査する取り組みです。この調査の結果は大阪湾の各地の水環境を把握する基礎資料になりますので是非ご協力下さい！
～大阪湾の生き物たちに触れあい、身近な大阪湾を楽しんでみませんか？～

協力団体同時募集中！
この参加者募集地（★印）の他の各地で協力いただける団体も併せて募集しています！
●印は平成30年度に参加いただいた調査地点です。

集合11:30
しおさい家習館
イルカ公園海側
せんなん里海公園

いろいろ生き物が見れるよ～！わくわく！

- ◆日時 令和元年6月2日(日) 11:30～13:30 (小雨決行)
- ◆場所 さとうみ磯浜&しおさい家習館(せんなん里海公園内)
- ◆対象 海の生き物に興味をもっている方などなたでも
【小学生以下のお子様は必ず保護者同伴でご参加下さい】
- ◆参加費 無料(ただし、集合場所までの交通費は各自負担ください。)
- ◆主催 大阪湾環境再生連絡会
[地域担当団体: 里海くらぶ連絡協議会(うみべの森を育てる会・ハーブタベス トリヤウの会・自然と本の会・NPO法人CAN・海潮おしぼくらふ)]
- ◆協力 大阪湾海岸生物研究会
- ◆後援 一般財団法人大阪府公園協会・せんなん里海公園管理事務所

○大阪湾環境再生連絡会 構成団体(事務局: 国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所)
行政機関: 国土交通省近畿地方整備局、第五管区海上保安本部、大阪府、兵庫県、大阪市、神戸市、堺市
関係機関: (他社) 大阪府立環境森林水産総合研究所、大阪湾広域環境創造研究センター、(一財)関西観光本部、きしわだ自然資料館、兵庫県立農林水産技術総合センター
市民団体等: 海潮おしぼくらふ、NPO法人近畿みなとの達人、NPO法人釣り文化協会、西淀自然文化協会、大阪湾見守りネット
参加大学: 大阪大学

【調査地点と担当団体】



調査地点	担当団体
1 アジュール舞子	須磨海浜水族園ボランティア[6/1]
21 須磨海岸	須磨海岸生物調査研究所[6/8]
19 住吉川河口	神戸市立須磨海浜水族園、NPO法人 豊かな森川海を育てる会[6/16]
2 香櫛園浜	西宮市貝類館[6/15]
3 甲子園浜	NPO法人 海浜の自然環境を守る会[6/2]
16 洲本市大浜海岸	須磨里海の会 [6/15]

昨年と今年の生き物一斉調査は、新型コロナウイルスの感染拡大によって開催していない。

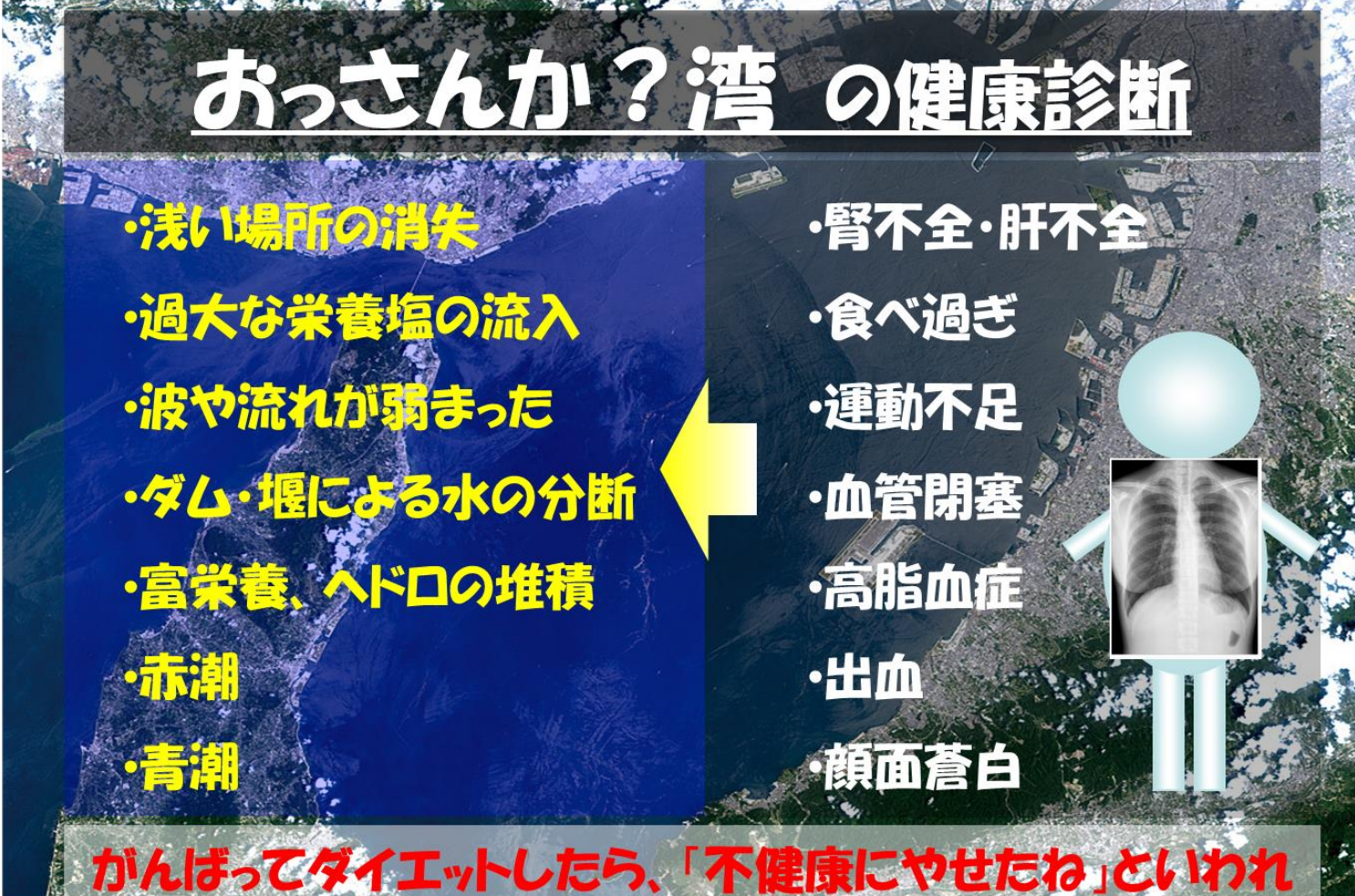
【大阪府内】		調査地点	担当団体
20	天保山	海遊館[5/25]	
17	堺浜友海ビーチ (堺2区生物共生型護岸)	(公社)大阪自然環境保全協会 (堺浜自然観察会)[6/16]	
24	堺浜自然再生 ふれあいビーチ	(公社)大阪自然環境保全協会 (堺浜自然観察会)[6/16]	
7	高師浜	高石ジュニア自然大学、 浜寺公園自然の会[5/25]	
30	浜寺水路	浜寺公園自然の会[5/18]	
8	大津川河口(左岸)	きしわだ自然資料館[6/1]	
9	阪南2区造成干潟	きしわだ自然資料館[6/2]	
10	近木川河口	貝塚市立自然遊学館[5/19]	
33	尾崎漁港西浜	下荘小学校、関西大学北陽高等学校、 NPO法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/19]	
25	尾崎海岸	(公社)大阪自然環境保全協会 (海のふしぎ観察会)[6/2] NPO法人 環境教育技術振興会、 フロロジス[5/17]	
26	波有手海岸	西鳥取小学校、関西大学北陽高等学校、 NPO法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/18] セブソーレup記念財団、 NPO法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/1]	
31	西鳥取海岸	舞小学校、関西大学北陽高等学校、 NPO法人 大阪湾沿岸域環境創造研究センター[6/6]	
14	せんなん里海公園	里海くらぶ連絡協議会、 NPO法人 釣り文化協会[6/2]	
23	長松海岸	(公社)大阪自然環境保全協会 (自然環境市民大学、空の会)[6/19]	
18	大阪湾[7月調査]	大阪ECO動物海洋専門学校、 海遊館[5/15、5/25]	
27	深日漁港干潟	岬町立岬中学校、一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア事務局 [6/1]	



3. 大阪湾見守りネットからのメッセージ

(1) 大阪湾の健康診断

現在の大阪湾を健康診断すると・・・「おっさんか？湾」となっていました。
各主体のこれまでの取り組みによって水質は改善しているものの、まだまだ多くの課題が見られます。



おっさんか？湾 の健康診断

- ・浅い場所の消失
- ・過大な栄養塩の流入
- ・波や流れが弱まった
- ・ダム・堰による水の分断
- ・富栄養、ヘドロの堆積
- ・赤潮
- ・青潮

- ・腎不全・肝不全
- ・食べ過ぎ
- ・運動不足
- ・血管閉塞
- ・高脂血症
- ・出血
- ・顔面蒼白

がんばってダイエットしたら、「不健康にやせたね」といわれ

(2) 持続可能な大阪湾の実現に向けた提言

第10回大阪湾フォーラム（2014年3月2日に大阪市立自然史博物館で開催）は、「第2期大阪湾再生行動計画」の策定に向けた「大阪湾years2012-2013総括イベント」の中核イベントとして位置づけられ、関連イベントと連携して開催した。フォーラムでは、大阪湾再生協議会への提言がまとめられ、大阪湾再生行動計画に反映された。

大阪湾再生協議会への提言

キーワード：つながる・つなげる

① 第1期の取り組みを第2期につなげる

- ・第1期の取り組みを第2期につなげ、広げ、深める
- ・1年単位、10年単位でのPDCAを回す

② 水のつながりで、つながりを再生

- ・山、川、街、海のつながりで再生を進める

③ 人がつながる大阪湾

- ・市民、NPO（見守りネット）の環によって、産・学・官をつなげ、再生の環を広げる
- ・海と人がつながる場と機会づくり（親水空間からさらに「進水空間」へ）
- ・地域で活動し地域がつながる

④ 次の世代につなげる

- ・海の再生 ～未来の大阪湾づくりへ
- ・健全で豊かな海を次の世代につなげる
- ・浅場を増やし、海水、栄養塩の循環をつなげる
- ・海的环境教育・学習、体験を再生の意識につなげる

⑤ 資源（産業）をつないで再生する

- ・企業の参加により環境再生のマーケットをつくる
- ・未利用地、未利用海面、垂直護岸、栄養塩、生物エネルギーなどの地域資源をサービスにつなげる

⑥ 意識をつなげる大阪湾

- ・びっくり、驚き、楽しさ、おもしろいがつながる大阪湾
- ・歴史、文化、環境がつながる大阪湾
- ・大阪湾の意識をつなげて再生

⑦ 海への恩返し、海とともに生きる

- ・私達が大阪湾から得ている恩恵、大阪湾に頼っていることを認識し（海側から生活を考え）、真にユタカで持続可能なまちづくりを進める



(3) 見守りネットの目標 SOGs ~持続可能な大阪湾の目標づくり

第17回大阪湾フォーラム（開催：2021年3月7日）では、大阪湾のめざすべき目標「SOGs（Sustainable Osaka-Bay Goals）」を示して議論を行った。今後は目標の達成に向けてフォーラムで議論を深めるとともに取り組みを推進していきます。

2025年に開催が予定されている大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、会場は大阪湾に囲まれた夢洲であるため、ぜひ万博でもSOGsの実現に向けた議論を実施していただき、『**持続可能な大阪湾**』を実現していただきたい。

Sustainable Osaka - Bay Goals



持続可能な社会は 持続可能な海から！.. 知らんけど（笑）

- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>1 海の生態系で
命輝く未来社会
をデザイン</p>  | <p>2 地元の美味しい
魚をみんなに</p>  | <p>3 いなくなった
生き物ウエルカム</p>  | <p>4 陸と海を
ええあんばいに
つなげよう</p> <p>循環</p>  |
| <p>5 海のエネルギーで
未来を照らそう</p>  | <p>6 元気な港で
経済を支えよう</p>  | <p>7 海で気持ちよく
海辺でも気持ちよく</p>  | <p>8 安全・安心
みんなの暮らし</p>  |
| <p>9 つくる責任
使う責任
捨てる責任も</p>  | <p>10 二酸化炭素を
吸収・固定し
食べよう</p>  | <p>11 海辺で学ぼう
海辺で知ろう
海辺で考えよう</p>  | <p>12 みんなで
楽しくおもしろく</p>  |

(4) 大阪湾バイスクール 持続可能な大阪湾に向けた担い手づくり

第8回大阪湾フォーラム（須磨海浜水族園、2012年3月4日開催）では、高校生や学生の取り組み紹介と世代間連携をテーマとしたフォーラムを開催し、これを契機として以降のフォーラムでは高校等との連携を継続している。

しかしながら、大阪湾沿岸域で活動するメンバーは高齢化しており、持続可能な大阪湾を実現するためには、次世代の担い手を育成することが急務である。

そこで、見守りネットでは、地域団体と高校生等をつなぐ「**大阪湾バイスクール**」の開催を検討している。

2019年には第16回大阪湾フォーラムのプレイベントとして大阪湾バイスクールを開催し、高校生による大阪湾水質調査、生き物調査を実施した。今後、バイスクールを継続的に実施していくため、近畿地方整備局や高校などと調整を行っている。

大阪湾バイスクールの様子（2019年10月6日開催）





參考資料

第17回大阪湾フォーラムもリモートによって開催した。

フォーラムでは、『大阪湾への想い』についてレターを募集し、様々な立場の方から手紙をいただいたレターをフォーラムで発表してもらうとともに、皆さんの『想い』を踏まえて作成した、大阪湾における課題と大阪湾の目指すべき目標「SOGs (Sustainable Osaka-Bay Goals)」について意見交換を行った。

タイトル：未来に向けて「大阪湾を深掘りしよう！」

日時：2021年3月7日（日）14:00～16:00

場所：リモート開催（Zoom利用）

**主催：大阪湾見守りネット、大阪湾環境保全協議会、
近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所**

プログラム：

1. 開会挨拶
2. 第16回大阪湾フォーラムの宿題について情報共有
3. 「大阪湾への想い」レター紹介
(20人からのご意見)
4. 意見交換「大阪湾の未来を深掘りしよう」
5. みんなの意見と次回に向けての言葉

参加者：51人



Sustainable
Osaka - Bay Goals

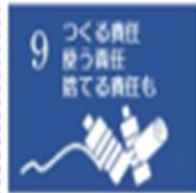
持続可能な社会は持続可能な海から！.. 知らんけど（笑）



<パートナーシップ>



<経済>



<社会>



<環境>



<環境学習>



- 大阪湾の恵みへの恩返し
- 若い世代も積極的に参加
- 「大阪湾再生計画」⇒多様な主体の連携

- 貧栄養化によるワカメやノリの生育不良
- ダイナミックな流動場に戻す ⇒生産性と生物多様性のアップ

- 大阪湾の幻想的な風景、漁師さんから頂くタコなど、サイクリング ⇒誰もが楽しめる海であってほしい
- 子供たちが遊び、学べる場の再生
- 魚も人間も快適に過ごせる海

- なぜ僕は油の浮いた海にいるのか
- 海底窪地の埋め戻し、生態護岸の整備、人工砂浜づくりなど
- 自然の仕組みは複雑
- 造成干潟⇒生物多様性の向上
- 大阪湾海岸生物ウエルカムリスト

- 大阪湾にかけた迷惑⇒無関心が原因
- 環境リテラシーを持つ必要がある
- 様々なフィールドワークで新たな発見や視点
- 水族館⇒環境学習の場の提供も役割

(参考) 第16回大阪湾フォーラム ①開催概要

第16回大阪湾フォーラムは2020年3月7日に神戸海洋博物館で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期し、プログラムを一部変更して2021年10月3日にリモートにより開催した。フォーラムでは、未来の大阪湾を担う高校生の取り組みを学ぶとともに、今後の大阪湾再生に向けた持続的な取り組みと各主体の連携について検討した。

**タイトル：リモートでも湾(ワン)チーム！
～高校生と考える未来の大阪湾**

日時：2020年10月3日(土) 14:00～16:00

場所：リモート開催 (Zoom利用)

**主催：大阪湾見守りネット、大阪湾再生推進会議、
大阪湾環境保全協議会、
国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所**

プログラム：

1. 開会挨拶
2. 趣旨説明、参加校の紹介・ネット状況の確認
3. 高校生による発表 (5校)
 - ・私立大阪高等学校
 - ・兵庫県立尼崎小田高等学校
 - ・和歌山県立向陽高等学校
 - ・兵庫県立神戸商業高等学校
 - ・神戸市立六甲アイランド高等学校

参加者：74人 (46アカウント、高校生及び教員は31人)

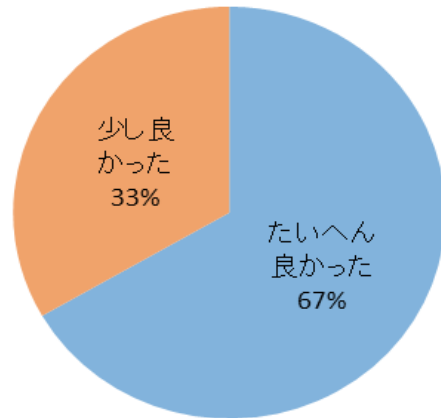


(参考) 第16回大阪湾フォーラム ②開催の様子

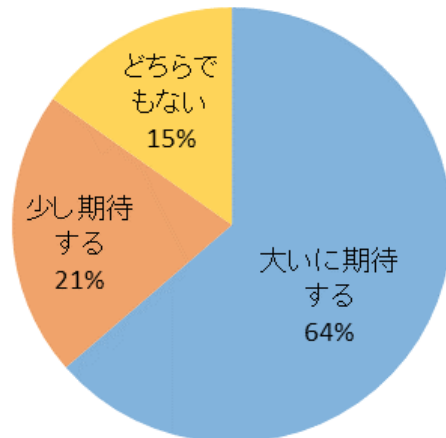


第16回大阪湾フォーラム参加者に実施したアンケート調査結果 (抜粋) は以下の通りである。
なお、アンケート回答者数は33人 (高校生が16人 (49%)) である。

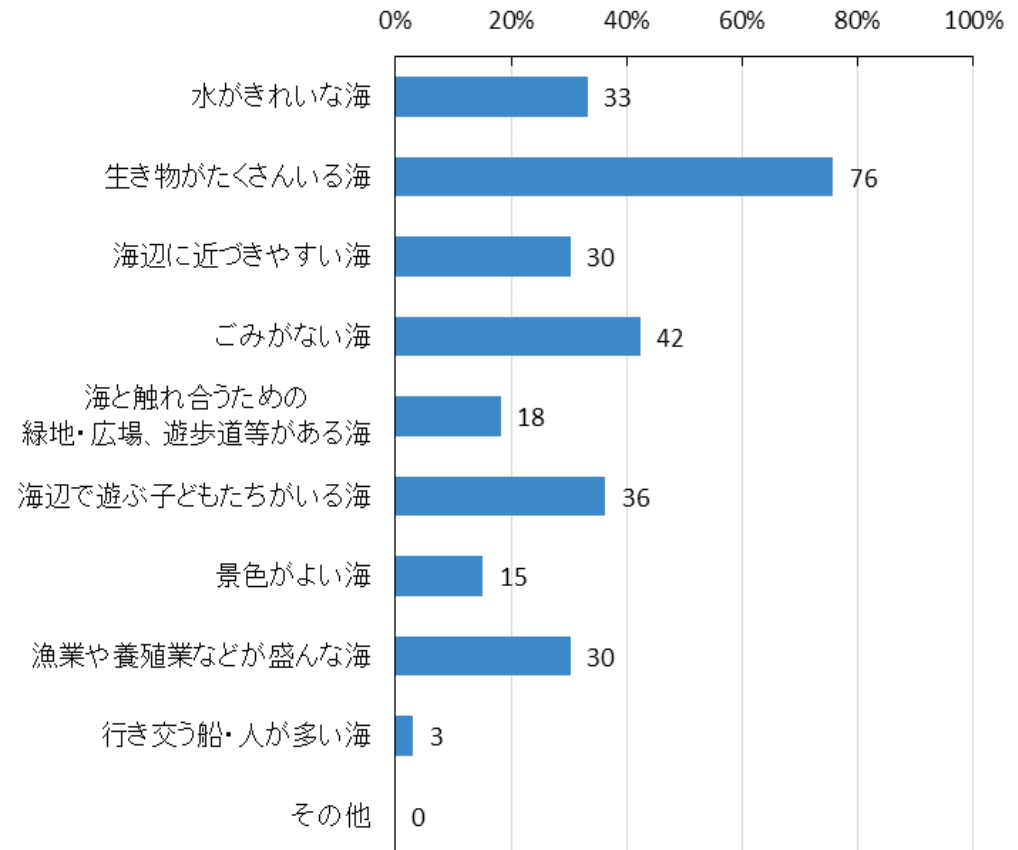
Q1. フォーラムの感想



Q3. 今後のオンラインフォーラム開催への期待



Q5. 大阪湾の将来像



第7回大阪湾フォーラム参加者に実施したアンケート調査結果 (抜粋) は以下の通りである。
なお、アンケート回答者数は64人 (回収率39%) である。

(1) 大阪湾に望むこと

③豊かな海・親しみのある海に該当する内容が11人で最も多く、次に⑥環境整備が9人であった。

また、その他の意見としては「熱意」や「自然の利用」「頑張っているNPO、団体への助成金の提供」などであった。
(回答者数：45人)

(2) 行政への期待

③施策の検討・見直しが11人で最も多く、次に①情報提供・情報共有が10人であった。

なお、⑥市民活動の支援も8人と多く、⑤予算確保も市民活動を意図しているとするれば、⑤⑥をあわせると11人と多かった。
(回答者数：37人)

表 行政への期待の集計結果

区分	件数
①情報提供・情報共有	10
②行政間の連携	5
③施策の検討・見直し	11
④環境整備	3
⑤予算確保	3
⑥市民活動の支援	8
⑦連携した取り組み	6
⑧その他	2

表 大阪湾に望むことの集計結果

区分	件数
①情報提供・情報共有	6
②(市民)意識の向上	6
③豊かな海・親しみのある海	11
④水質の改善	6
⑤生物多様性の確保	6
⑥環境整備	9
⑦連携した取り組み	4
⑧その他	5

(3) 市民・産・学・官が連携した環境再生の取り組みに必要なこと

③豊かな海・親しみのある海に該当する内容が11人で最も多く、次に⑥環境整備が9人であった。
また、その他の意見としては「熱意」や「自然の利用」「頑張っているNPO、団体への助成金の提供」などであった。
(回答者数：45人)

表 市民・産・学・官が連携した環境再生の取り組みに必要なことの集計結果

区分	件数	同じ区分に含めたその他のキーワード
①広報・情報発信	7	地域の宣伝活動、多くの人に知ってもらう、周知活動
②情報交換・情報共有・相互理解	14	コミュニケーション、意見交換、交流、お互いを理解、お互いが感謝しながら取り組む、遠慮なく意見が言える
③共通の目標	4	目的の共有、お互いに協力できることを持つ、目指すところが同じ
④市民の意識向上・参加促進	10	人、個人の参画、幅広い市民の参加、皆が感心を持つ、興味のない方、関係の無い方々にも多く参加、広い年齢層の活躍、若い力
⑤コーディネーター	5	人、仲介、中間支援の団体
⑥具体的な取り組み	7	活動、取り組みの具体案、集まること、シンポジウムや講演会、機会づくり、キッカケづくり、体験型イベント
⑦取り組みの継続	3	回を重ねる、持続性を保つための取り組み、モチベーションの持続
⑧活動できる場の整備	2	市民が利用できる場の再生、協働できる場の確保
⑨予算確保	2	費用確保の方策、産・官からの資金援助

(参考) 大阪湾におけるアマモ連携 (例: 泉南地域)



みんな「大阪湾見守りネット」のメンバーなので、
すぐに連携・協働ができる！

(参考) 大阪湾生き物一斉調査について ①概要

大学・市民団体・国および地方自治体等で構成する「大阪湾環境再生連絡会」が大阪湾の沿岸で活動する団体の協力を得て、皆さんと一緒に大阪湾内の各地の生き物を一斉に調査する取り組みです。

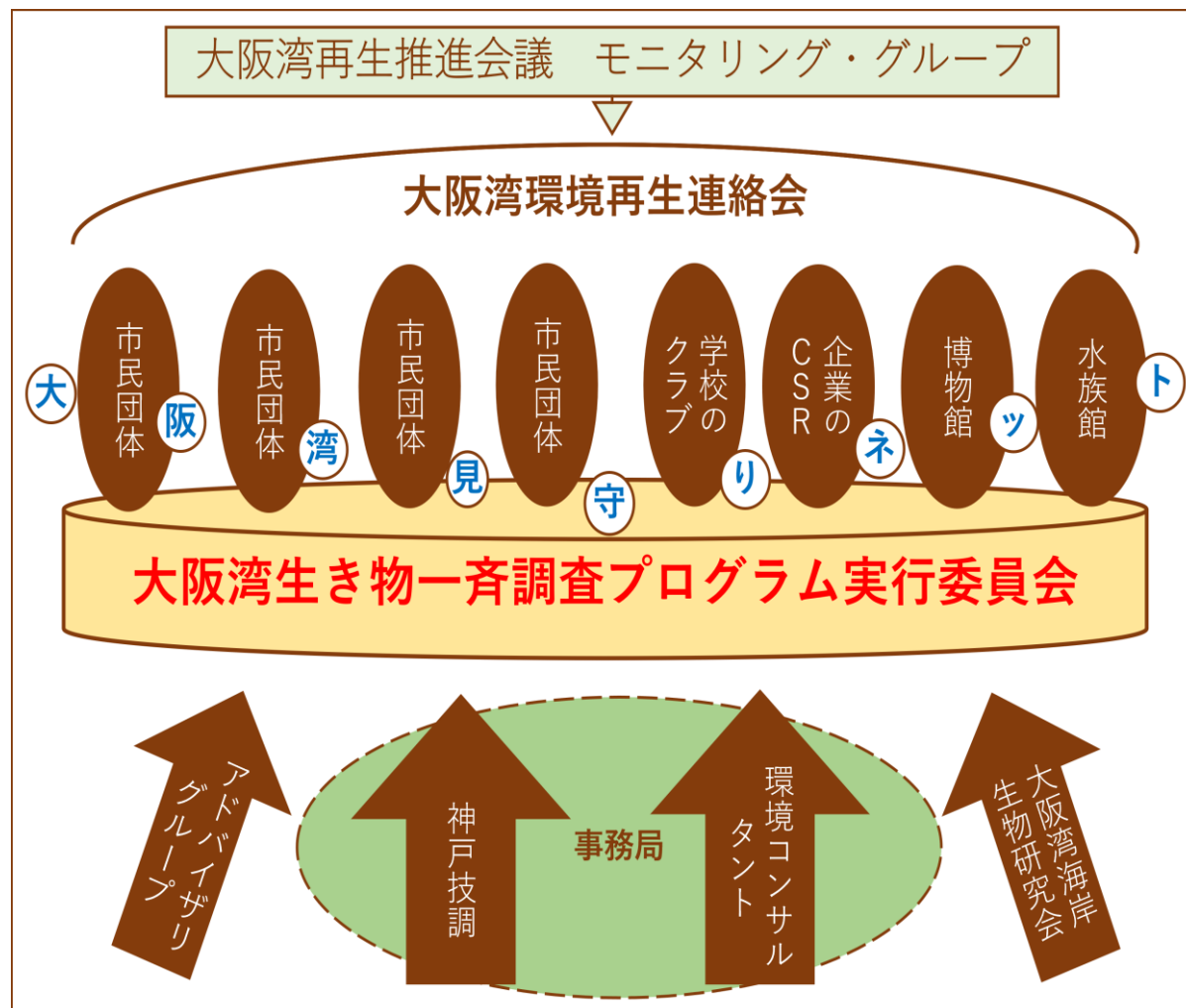
この調査の結果は大阪湾の各地の水環境を把握する基礎資料にします。

(大阪湾環境データベースより)

- 市民参加による大阪湾再生機運増進
- 生物多様性国家戦略の実践の場
- 大阪湾環境データベースへの寄与
- 生物による大阪湾の環境診断、外来種の監視
- 学術面での寄与

市民参加型調査としての工夫

学術調査としての精度担保



(参考) 大阪湾生き物一斉調査について ②調査結果



データの公開：大阪湾環境データベース
(国土交通省近畿地方整備局)

成果の活用：

- 学術論文 (外来種、フナムシなど)
- 大阪府レッドリスト (2014) への貢献
- 大阪湾ウェルカムリストの作成 (2019.12～)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
参加人数	467	666	792	931	1,328	1,375
地点数	15	15	17	18	21	23
団体数	12	15	16	16	20	22
確認種数	410	533	474	392	503	660
貴重種数	40	49	48	51	62	75
テーマ			マガキとケガキ	キタフナムシ	外来種	カニ

	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
参加人数	1,244	1,227	1,080	1,101	1305	1090
地点数	22	24	26	25	26	24
団体数	20	24	26	28	34	31
確認種数	595	571	713	802	744	607
貴重種数	78	95	95	97	75	85
テーマ	巻貝	ヤドカリ	フジツボ	アサリとヒメアサリ	タマキビ類	ヒライソガニとケアシヒライソガニ

(例) 大阪湾生き物一斉調査におけるウミニナの記録

調査年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
1 アジュール舞子	■											
2 須磨海岸		■	■	■	■							
3 住吉川河口	■	■	■	■								
4 香櫛園浜	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5 甲子園浜	●				●	●	●	●	●	●	●	●
6 矢倉干潟												■
7 十三干潟(淀川)	■	■	■	■						■	■	■
8 天保山	■	■	■	■								
9 大阪南港野鳥園							■					■
10 堺二区生物共生型護岸	■	■										
11 高師浜								●	●	●	●	●
12 大津川河口												
13 阪南二区造成干潟		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14 近木川河口					●				●	●	●	●
15 樫井川河口・岡田浦						●	●	●	●	●	●	●
16 男里川河口干潟	●						●	●	●	●	●	●
17 せんなん里海公園											●	●
18 東川(落合川)河口	■	■	●	●			●	●	■	■	■	■
19 洲本市大浜	■	■					■	■	■	■	■	■

●は記録あり、空白は記録なし、網掛けは調査がなされていないことを示す、緑色は再生干潟等。

1980年代にウミニナの産地として知られていたのは男里川河口だけ。近年の分布拡大が顕著。西宮の沿岸では2007年から記録されるようになった。

理由として考えられること：

- ・水質の改善（かつては浮遊幼生の発育が阻害されていた可能性）
- ・干潟再生事業などの進展

大阪湾ウェルカムリスト案（潮間帯生物）

R3.3.12 大阪湾環境再生連絡会事務局

背景：

- ・「大阪湾生き物一斉調査」は、平成20年から行われ今年で12年目を迎え多くの生物データが蓄積された。
- ・大阪湾再生行動計画の目標である「豊かな魚庭（なにわ）の海」を評価する生物リストは存在しない。（現在は確認された種及び数で評価）

目的：

「大阪湾生き物一斉調査」でこれまでに得られた結果をベースに、大阪湾において、今後、新たに定着あるいは分布範囲の拡大を期待する生物種を選定したリストを作成する。（大阪湾に戻ってきてほしい、あるいは増やしてほしい種を選定）

活用：

- ・大阪湾再生行動計画の目標である「豊かな魚庭（なにわ）の海」の評価指標として活用する。（戻ってきた種、あるいは増えた種で大阪湾再生を評価）
- ・ウェルカムリストの選定種を大阪湾再生の象徴的な種として広く認識してもらうことで、大阪湾が再生していることを実感してもらう。

作成：

大阪湾生き物一斉調査のアドバイザーグループなどの専門家により、生物種の候補を絞り込み、大阪湾環境再生連絡会の会員から意見を聞き、大阪湾環境再生連絡会として公表する。

- ◆ **ランクA** 大阪湾内では近年（1950年代以降）の記録が無い（ただし近隣海域では記録されている）：53種
- ◆ **ランクB** 大阪湾内では産地が限られていて、今後分布の拡大が期待される：63種
- ◆ **ランクC** 大阪湾内では多数の地点で記録され、かつ良好な環境（水質・地形）の目安となる：68種

ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム イメージキャラクター

